

「道徳の時間」学習指導案

- 1 学年 第4学年1組 38名
- 2 主題名 働く喜び 内容項目 C－勤労，公共の精神
- 3 教材名 「もっこ」をせおって (出典：「ゆたかな心で」 東京書籍)

4 主題設定の理由

- よりよく生きていくためには，自分が働くことで，集団や社会を支えている充実感を味わい，自分の仕事に誇りや喜びを持って，社会の一員としての責任を果たすことが大切である。

この時期の児童は，みんなのために働くことに楽しさや喜びを味わうことがある一方で，働くことを負担に感じたり，面倒に思ったりする様子も見られる。みんなのために働くことを通して，相手に喜んでもらえることや，集団が向上していくこと，自分自身もやりがいを感じて充実感を味わい，働くことの大切さを自覚していくことは，将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観を育むうえでも重要である。

このような働くことの大切さに気付き，集団の一員として自分ができることを考え，進んで働こうとする意欲や態度を養っていきたいと考え，本主題を設定した。

- 本学級の児童の実態を把握するため，事前の意識調査を行った。

質問内容	肯定的回答	否定的回答
①進んで仕事をしていますか。	97% (37/38)	3% (1/38)
②進んで働くことが好きですか。	84% (32/38)	16% (6/38)
③それはなぜですか。	<p>【みんな】(14人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しないとみんなが困る ・みんなが助かる ・役に立ちたいから <p>【相手】(6人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれる <p>【自分】(8人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうと言ってくれと嬉しい ・楽しい(2人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・めんどくさい ・自分のことができなくなるなど
④どんなことを進んでしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動 ・給食当番 ・そうじの机運びなど 	

アンケートの結果や児童の実態から，本学級の児童について，次のように分析した。

- ・児童の多くは，進んで仕事をしているという意識が高い。実際に，自分から仕事を見付け，進んでクラスの配り物をしたり，荷物を運んだりできる児童もいる。しかし，中には意識に反して，自分が担当する仕事を忘れていたり，周りからの声かけを必要としたりする児童もいるという現状もある。また多くの児童は，進んでする仕事として，係活動や当番活動などをイメージしていた。このことから，「進んで働く」ということについて

て、「決められた仕事」と捉えている児童と「集団のために進んで自分ができること」と捉えている児童など、捉え方には差があることが分かった。

- ・児童の多くが、自分から進んで働くことが好きだと感じており、進んで働きたいという思いを持っている。理由としては、「相手やみんなが助かるから」「しないとみんなが困るから」というものが多く、働くことはみんなが喜んでくれることであり、みんなの役にたつことであるという働くことよさについて知っていると考えられる。しかし、実際には、自分のしたいことを優先したり、言われた仕事だけをこなしたりしているような実態も見られる。これは、否定的回答の理由でもあるように「めんどくさいから。」「自分のことができなくなるから。」という思いが本音にあることが考えられる。児童は、自分も集団の一員であり、集団を支えているという喜びや充実感を味わい、働くことで集団がよりよくなっていくことや集団の一員として働く喜びが自分の喜びにもつながるといふ働くことの大切さを自覚できていないのではないかと考える。

- 指導にあたって、導入では、アンケートの結果から「働く」ことについて日常を振り返り、「みんなのために進んで働いていること」を想起させ、教材への方向付けをしていく。

基本発問では、被災者の不安な気持ちを捉えさせるとともに、がれきの山を乗り越え自分たちの食べ物を自分たちで手に入れる大変さに共感できるようにする。また、2人が後に「毎日」「1時間をかけて」「時には朝昼晩の3回」も荷物運びをしていくこととなる百歳のおばあちゃんとの出会いを通して、考えたことについて捉えていく。

中心発問では、大変な荷物運びにもかかわらず、学校が始まっても荷物運びを「やめな」と言った2人の思いを考えさせたい。2人が働くことをやめなかったのは、喜んでくれた百歳のおばあちゃん、おじいちゃん、引っ越しを手伝ってくれた地域の人、被災されたみんなのために自分が役に立っているという実感に裏付けられた「役に立ちたい」「できることをしたい」という強い思いがあったからである。2人が荷物運びをやめずに続けた思いを考えることを通して、自分も支えられており、みんなのために働くことの大切さについて深めていきたい。また、ぼろぼろになった「もっこ」を見て、満足そうにほほえみ合った2人の気持ちを考えさせることで、みんなの役に立つ喜びややりがい、やりきった自分自身への充実感や達成感を感じ取らせていきたい。

終末には、導入で出し合った「みんなのために働いていること」と結び付け、自分たちがみんなのために働いていたことを価値付け自己肯定感を持たせ、進んで働こうとする実践意欲を持たせていきたい。

5 他教科等との関連

福山100NEN教育における【21世紀型“スキル&倫理観”】においては、中学年の目標である「自分の意見を押し通すのではなく、相手を受け入れながら活動できる子」（他者への思いやり）及び「ネガティブ発言よりポジティブ発言で自分を励まし、やり抜く子」（粘り強さ・やり抜く力）に関連している。

児童は総合的な学習の時間で、「健康」をテーマに学習をしてきた。調べ学習の際には、給食の先生や保健の先生、また家族など、自分達の健康を支えているたくさんの方がいることに気付くことができた。活動を通して、児童はお世話になった方に恩返しをして「自分達が御幸町のみんなの健康を守りたい」という思いを持つようになってきている。自分が地域社会に支えられて生きていることに気付き、自分自身も家族、学校、地域のために役に立てることを主体的に考え、進んで働くことで地域を支えていきたいという思いと結び付けていきたい。

6 ねらい

進んでみんなのために働くことで、社会に役立つことができ、また自分自身も働く喜びや充実感を味わうことができることに気付き、自分ができる仕事を見付けたり、集団生活の向上につながる活動に参加したりしてみんなのために働こうとする態度を育てる。

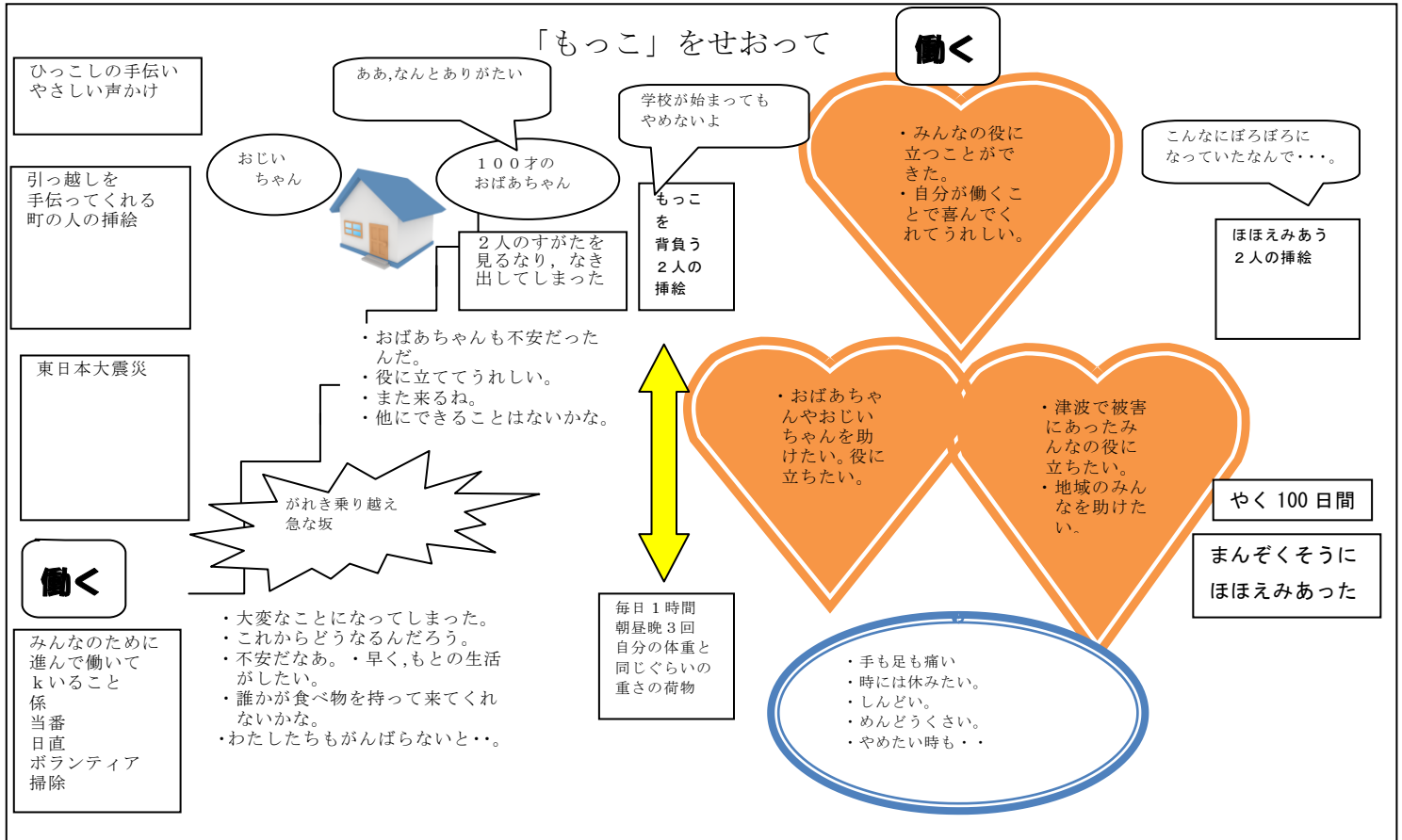
7 準備物 場面絵 短冊 ワークシート もっこ 座席表

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 学習への方向付けを行う。	○みんなのために進んで働いていることって、どんなことがありますか？ ・係 ・日直 ・給食のかたづけ ・ボランティア掃除	○自分達がみんなのために進んで働いていることを日常生活を振り返って出し合わせるようにする。
展 開	2 教材「『もっこ』をせおって」の前段を聞き、地震後の不安な2人の気持ちを考える。 3 教材展開の段落を聞き、荷物運びを続けた2人の気持ちについて考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 地震に遭い、自分たちの食べ物、がれきを乗り越え、急な坂をのぼりおしながらひなん所に受け取りに行かなければならないことを知った2人は、どう思ったでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・大変なことになってしまった。 ・これからどうなるんだろう。不安だなあ。 ・早く、もとの生活がしたい。 ・誰かが食べ物を持って来てくれないかな。 ・わたしたちもがんばらないと・・・。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 2人のすがたを見るなり、なきだしてしまっただおばあちゃんの姿を見て、2人はどんなことを考えたのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんも不安だったんだ。 ・お弁当をもって来ておばあちゃんの役に立ててうれしい。 ・おばあちゃん、また来るね。 ・わたしたちに他にできることはないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「もっこ」（竹であんだせおいかが）について実物を見せる。 ○引っ越しの日に、近所の人たちが次々と集まって荷物運びを手伝ってくれたことや優しい声かけをしてくれたことを板書で示す。 ○「地震の恐怖」や「津波によって自宅が流されたこと」、「避難所」と「高台」にあるおじいちゃんまでの急な上り坂をのぼることの「大変さ」を板書で示す。 ○震災後の生活の不安さや大変さが2人の気持ちから捉えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ○2人のすがたを見るなり、「ありがたい。」と言って泣き出してしまった百歳のおばあちゃんの不安でとほうにくれていた気持ちや感謝の気持ちが分かるように板書に残す。

<p>4 教材後段を聞き、学校が始まって「やめな いよ。」と言った2 人の気持ちを考える。</p> <p>きつい道りで、 大変ではないで すか。</p> <p>頼まれたわけ はないので、2人 がする必要はない のではないで すか。</p> <p>5 働く喜びについて 考えを深める。</p> <p>えがおになって いる2人はどん なに気が付 いたのでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重い荷物を持つのは手も足も腰も痛くなる。 ・時には休みたい。 ・しんどい、めんどうくさい。 ・やめたくある時もある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ、2人は学校が始まって荷物運びを やめずに続けたのだろう。</p> <p><A：他律></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」と言われたいから。 ・感謝されたいから。 <p><B：働く目的（自分・相手・みんなのために）></p> <p>（自分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めたことを最後までやりきりたい。 ・自分で決めたから成し遂げたい。 <p>（相手）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが待っているから ・おじいちゃんの手助けをしたいから。 ・困っている人がいるから。 ・目の前で困っている人を放っては おけない。 <p>（みんな）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波で困っているみんなを助けたい。 ・自分も助けてもらったから、地域のみんなの役に立ちたい。 ・地域の一員として自分ができたい。 <p><C：働く喜び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで働くことで、相手やみんなの役に立つことができ、自分も成長し、達成感・喜びを感じることができる。 ・働くことで誰かが誰かを支えることで、自分もまた支えられている。 ・自分がみんなを支えることで、みんなを喜ばせたり集団生活をよりよくすることができたりする。自分が最後までやりきることができて気持ちいい。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ぼろぼろになった「もっこ」を見て、顔を見合わせ満足そうにほほえみ合った2人は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分もみんなの役に立つことができた。 ・困っている人の手助けができてよかった。 ・誰かの役に立つことをしていきたい。 ・喜んでくれる人を見るのは、自分もうれしい。 ・自分にもできることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1ヶ月間、坂のきつい道りを自分と同じぐらいの重さの飲み水などを運び続ける苦労を自我関与させて、働くことの大変さやしんどさについても共感的に捉える。 ○もっこにおもりを入れて重さを体感できるようにする。 ○ワークシートに書かせることにより、「2人」の気持ちをじっくりと考えさせ、自分の考えを持つことができるようにする。 ○座席表で見取り、意図的指名に生かす。 ○約100日間休まずに背負い続けたぼろぼろの「もっこ」を見て、満足そうにほほえみ合っている2人の様子から、働くことの尊さや得られる満足感を捉えられるようにする。 ★進んでみんなのために働くことで、役立つことができ、また自分自身も働く喜びや充実感を味わうことができるという価値に気付き、自分ができる仕事を見付けたり、集団生活の向上につながる活動に参加したりしてみんなのために働こうとする思いをあたためることができたか。
<p>6 自己を見つめ、働くことについて自分の考えを深め、振り返りを交流する。</p> <p>終末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを交流する。 ・働くことは、係や当番活動をすることだと思っていたけど、自分たちができることを見付けて、みんなの役に立つことだと分かった。 ・働くことで、誰かが喜んでくれたり、笑顔になったりする。自分が役に立つことができることで、自分もうれしくなることが分かった。 ・みんなのために自分が役に立っていることや役立つことに気がついた。 	

9 板書計画



10 ワークシート

4年道徳

「もっこ」をせおって

4年組 番 名前 ()

◎なぜ、2人は学校が始まって、荷物運びをやめずに続けたのだろう。

4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・あまりできなかった 1・・・できなかった

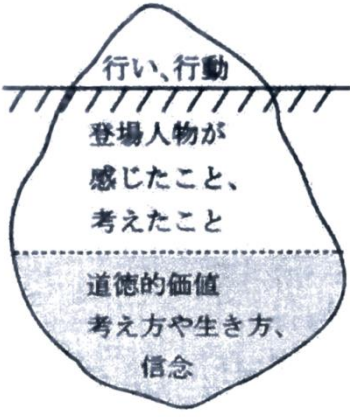
○自分の考えを持つことができましたか。(4 3 2 1)

○今日の授業で、新しい発見があった。(4 3 2 1)

○友達のことを聞いて、「なるほど」と思った。(4 3 2 1)

○今日の授業で、新しく気づいたこと、発見したこと、「なるほど」と思ったことなどを書きましょう。

(4) 年 (1) 組
内容項目 C－勤労，公共の精神
教材名 「もっこ」をせおって



【道徳的価値の自覚を深める指導にするために】

行い 行動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が始まって「ううん，やめないよ。もっとみんなの役にたきたいの。」と言い，学校から帰ると，「もっこ」を背負い，夕方の配達を続けた。
登場人物が 感じたこと 考えたこと	<p>(相手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが待っているから。 ・おじいちゃんの手助けをしたい。 ・引っ越しの時に優しくしてくれた地域の人の役に立ちたい。 <p>(みんな)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに喜んでもらいたい。 ・困っている時には、みんなが助け合うことが大切。 ・地域の一員として自分ができることをしたい。 ・みんなが安心して楽しく暮らせるように，役に立ちたい。 <p>(自分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めたことを最後までやりきりたい。 ・途中であきらめたくない。
道徳的価値 考え方 生き方 信念	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで働くことで，相手やみんなの役に立つことができ，自分も成長でき，達成感・喜びを感じることもできる。 ・働くことで誰かが誰かを支えていて，自分もまた支えられている。 ・自分がみんなを支えることで，みんなを喜ばせたり，集団生活をよりよくすることができたりする。